



防衛医大病院広報誌 第18号 2025年9月発行
企画・編集 防衛医科大学学校病院 患者支援センター
発行責任者 塩谷 彰浩
住 所 〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2
T E L 04-2995-1511 (代表)



防衛医大【まもる護】通信

地域医療連携検討会をR7年6月24日(火)に開催しました

テーマ：『手術用ロボット ダビンチ治療について～泌尿器科手術を中心に～』

テーマ1：埼玉西部地区でのロボット支援手術の導入～ダビンチ手術で得られるメリット～

泌尿器科 小林裕章医師

埼玉西部地区2施設（防衛医科大学学校病院・所沢美原総合病院）でのロボット手術の立ち上げの経験を踏まえた、ロボット手術導入に必要な知識や2施設での導入プロセス、腹腔鏡手術等との術式による違いやロボット手術に適する症例等についての講演がありました。特に防衛医大病院における症例では、高難度手術としてのロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術（RARC）＋尿路変向術や、対応困難症例としての進行膀胱癌による悪液質下での進行膀胱癌手術、根治的前立腺全摘術後の浸潤性膀胱癌手術、子宮体癌根治術後の浸潤性膀胱癌手術についての紹介がありました。



小林 裕章 先生

このように満を持して最先端手術が可能となった恩恵が十分に地域住民の方々へ行き渡るよう、引き続き地域医療機関関係者の方々との綿密な連携を図って参ります。

テーマ2：ダビンチ手術の実績及び術中看護～RARP 立ち上げから1年4ヶ月看護が支えるチーム

医療とこれからの地域医療～ 手術部看護師長・手術看護認定看護師 島村麻実看護師



島村 麻実 先生

立ち上げにあたり、メーカーによる説明会から各職種ごとのトレーニングやシミュレーションを行い安全・安心を第一にダビンチ手術の導入を進めました。術前患者指導から術中の合併症に注意し（特に手術中の頭低位による影響等）、最終的には病棟看護師向けの勉強会を開催する等看護の視点の重要性についての講演でした。多職種がそれぞれ専門性を発揮し同じ方向を見据えて共有していく【チーム医療】の大切さを述べられていました。

病 院 紹 介 【北所沢病院】

病院長の 乾多久夫 院長先生にご紹介を頂きました。印象的だったのが広報担当としてヤギを飼われているとの事で患者さん方にも喜ばれているようです。



乾 多久夫 院長



参加者：来場 82 名 Web 参加 37 名の合計 119 名でした。ご参加ありがとうございました。

教授就任挨拶① 心臓血管外科 教授 堤 浩二

防衛医科大学校医学教育部外科学講座（心臓血管・呼吸器）教授堤浩二（防衛医大12期卒）と申します。

この度、2025年1月1日付で、防衛医科大学校外科学講座（心臓血管・呼吸器）教授に就任しました。当講座は、心臓血管外科と呼吸器外科の2つの分野を担当しています。私は、心臓血管外科分野を担当しています。当心臓血管外科は、成人症例を対象として冠動脈疾患・弁膜疾患および大動脈疾患と幅広い分野に対する外科手術を実施しています。開心術数は、年間70件前後そして総手術数は、100-120件程と決して多くはありませんが、手術成績は安定しています。標準的治療からstent graftを用いた低侵襲手術までそれぞれの症例に合わせた安全で最適な手術を提供しています。また緊急症例にも積極的に対応しています。

呼吸器外科分野は橋本学内准教授が担当しています。低侵襲化を推し進めており90%以上の症例に対して鏡視下手術を実施しています。またDa Vinciを用いたロボット手術も導入しています。手術件数は、年間100-130件程あり埼玉県内でも有数の症例数を誇っています。これからも地域の皆様に安心して頼られる外科学講座（心臓血管・呼吸器）を作っていく所存です。

心臓血管外科の外来日は火曜日と木曜日です。

また呼吸器外科の外来日は月曜日と金曜日です。よろしくお願いいたします。



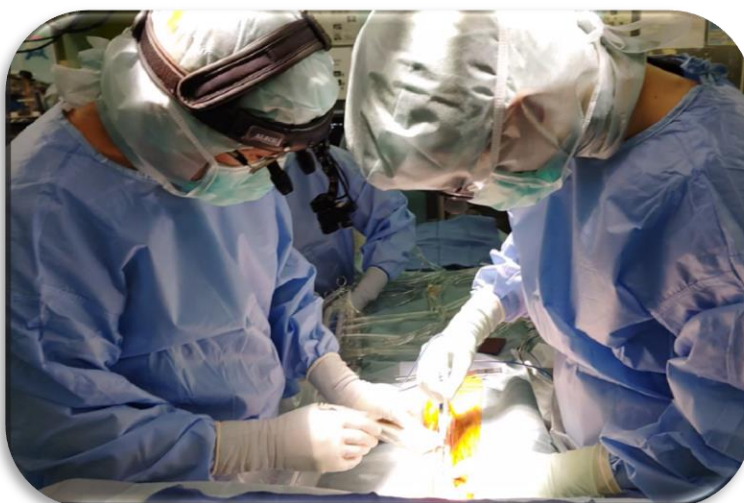
後列左から

木村栄一医師、時岡美里医師、
稲田菜帆花医師、山中望助教

前列左から

橋本博史学内准教授、堤浩二
石田治講師

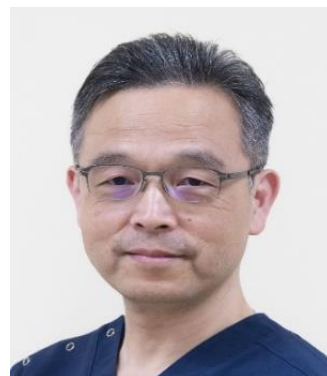
手術中の様子



教授就任挨拶② 外傷・熱傷・事態対処医療センター再建部門 教授 堀口 明男

令和7年1月より、防衛医科大学校病院 外傷・熱傷・事態対処医療センター 再建部門の教授を拝命いたしました堀口明男と申します。

私はもともと泌尿器科医ですが、現在は事故や災害などによる外傷後の後遺障害に対する再建手術を専門としています。なかでも、「尿道外傷」や「尿道狭窄」といった疾患に対する再建手術（尿道形成術）を数多く行ってまいりました。これらの疾患は、一度発症すると排尿が困難になり、重症化すると自力で排尿できなくなったり、腎臓や膀胱の機能を損ねたり、感染を繰り返すなど、日常生活に深刻な影響を与えます。決して命に関わる病気ではありませんが、生活の質（QOL）を大きく損なう、非常にやっかいな病気です。特に、尿道外傷は若い患者さんが多く、仕事にも大きな支障が出てきます。「尿道外傷」や「尿道狭窄」を根治させるには尿道形成術が必要になりますが、極めて専門的な技術が必要であるため、治療を行える医療機関は国内でも限られております。結果として、非常に多くの方が症状に悩みながら適切な治療を受けられずにいるのが現状です。私はこれまでに、北は北海道から、南は沖縄まで全国各地からご紹介いただいた1,800人以上の「尿道外傷」や「尿道狭窄」に悩む患者さんを治療してきました。現在も全国各地の医療機関の先生方と連携しながら、患者さん一人ひとりに合った再建手術を行っております。



また当部門は、2024年に国際的な再建泌尿器科学会（Society of Genitourinary Reconstructive Surgeons, GURS）から「グローバルフェロシップ認定施設」として正式に認定されました。これは、当部門の再建治療が世界的に見ても最先端・最高水準にあることが国際的に評価された証です。日本国内では唯一、アジアでも数施設しか認められておりません。国内だけでなく、海外からも当院の再建手術を見学に来る医師が数多くおります。



当部門の特徴は、泌尿器再建にとどまらず、熱傷や形成外科的外傷に対する再建手術にも積極的に取り組んでいる点です。機能だけでなく整容面にも配慮しながら、事故や外傷によって生じたからだの損傷に対して、再建医療を提供しています。私たちが目指しているのは、単に傷や変形を治すことではありません。外傷を負った患者さんが、再び社会で自分らしく生きるための「真の意味での社会復帰」を支えることです。そのために、医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多職種が一体となって、患者さん一人ひとりの声に寄り添った医療を実践しています。

これからも、再建医療の力で、多くの方が前向きな一歩を踏み出せるよう、全力で取り組んでまいります。今後とも、地域の皆さま、そして連携医療機関の先生方と力を合わせながら、信頼される再建医療の拠点として責任を果たしてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

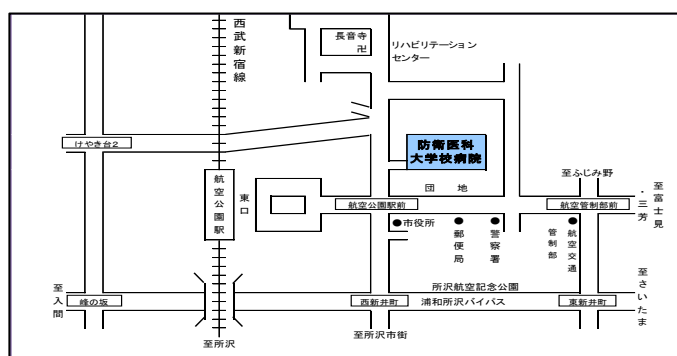
高度で安全な医療を提供しつつ地域医療並びに自衛隊の医療・衛生活動に貢献し、優れた自衛隊医官・看護官等を育成する

- 1 患者さんの視点に立った、安全で良質な医療を提供する
- 2 地域医療機関と密に連携し、地域に貢献する
- 3 高度で先進的な医療を提供する
- 4 地域の中核として救急医療を実践する
- 5 新興感染症に対して敏速対応できる体制を整える
- 6 災害対処能力の向上に努める
- 7 自らの使命感を自覚し、豊かな人間性と高い倫理観を備え、自衛隊の多様な任務にも対応しうる医官・看護官等を育成する

当院の精神科、感染症・呼吸器内科、脳神経内科、膠原病内科、血液内科、糖尿病内分泌内科、泌尿器科（泌尿器科一般・尿路腫瘍）、泌尿器科特殊外来【尿道狭窄症・尿失禁（男性）】、消化器内科特殊外来（脂肪肝炎）の初診外来は完全紹介予約制とさせて頂いております。

※令和8年1月より、消化器内科は完全紹介予約制となります。ご理解・ご協力を宜しくお願い致します。

The diagram illustrates the 30-minute, 40-minute, and 43-minute train routes from the Hospital to various stations. The 30-minute route (blue) goes to Nishi-Shinjuku. The 40-minute route (green) goes to Maebashi. The 43-minute route (orange) goes to Shinjuku. The diagram also shows the location of the Hospital relative to the airport and other major stations.



初診予約、緊急入院・受診、
セカンドオピニオン、病状照会等

退院調整、在宅調整、医療福祉相談、
がん患者相談、脳卒中相談等

TEL : 04-2995-1511 内線 6123~6126